第 4 章　都市構造・都市基盤

～拠点都市として持続可能なまちをつくる～

[redacted]

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	都市計画施策推進事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	住宅都市部都市計画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路圏都市計画（釧路市、釧路町）都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 第2次釧路市都市計画マスタープラン 釧路市立地適正化計画 釧路市都市計画道路の見直し方針
目的と概要	人口増減、モータリゼーションの進展、産業構造の転換、地球環境問題の高まり、厳しい財政的制約など、都市をめぐる社会経済状況に対応するため、都市内の限られた土地資源を有効に配分し、建築敷地、基盤施設用地、緑地自然環境を適切に配置するなど、都市計画の決定(変更)に関する調査および手続きを推進する。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	3,334	4,505	4,096
財源	一般財源	（千円）	3,334	4,505	4,096
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	17,840	18,470	18,595
	職員数	（人）	2.5	2.5	2.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		29.5	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
1. 都市計画決定（変更）・・・土地利用 ・愛国地区地区計画	1. 都市計画決定（変更）・・・土地利用 ・愛国地区地区計画 令和7年 3月18日　北海道都市計画課下下協議 ※決定告示は令和7年度を予定
2. 都市計画決定（変更）・・・都市施設 ①道路 ・愛国北園通（一部区域の変更） ・雄鉄線通（区域の変更、構造の変更） ・釧路環状通（錯誤の解消） ・釧路大橋通（起点の変更） ・鳥取公園通（終点の変更、構造の変更） ・昭園通（区域の変更、構造の変更） ・北園通（路線の廃止） ・富士見緑ヶ岡通（区域の変更）	2. 都市計画決定（変更）・・・都市施設 ①道路 ・愛国北園通 令和6年10月 7日　釧路市都市計画審議会（本審査） 令和6年12月13日　釧路市告示第458号 ・雄鉄線通、釧路環状線、釧路大橋通、鳥取公園通、昭園通、北園通、富士見緑ヶ岡通 令和6年12月16日　北海道都市計画課事前協議 ※決定告示は令和7年度を予定
②緑地 ・新釧路川緑地（区域面積の変更）	②緑地 ・新釧路川緑地 令和6年10月 7日　釧路市都市計画審議会（本審査） 令和6年12月13日　釧路市告示第457号
③公園 ・治水公園（区域の変更）	③公園 ・治水公園 令和7年 3月18日　北海道都市計画課下下協議 ※決定告示は令和7年度を予定
3. 釧路圏の広域的な都市計画 ①北海道及び釧路町との広域的な都市計画の調整	3. 釧路圏の広域的な都市計画 ①北海道及び釧路町との広域的な都市計画の調整 令和6年5月20日　釧路圏広域都市計画協議会総会 令和7年3月18日　都市計画決定（変更）に係る協議（北海道）
4. その他 ①釧路市都市計画審議会	4. その他 ①釧路市都市計画審議会　3回 令和6年10月7日　本審査（書面開催） 令和6年12月2日　予備審査 令和7年 2月6日　本審査、報告事項1件

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・都市環境や社会情勢の変化に対応した持続可能なまちづくりを推進するため、継続的に検討を図る必要がある。 ・「釧路都心部まちづくり計画」を推進するため、必要となる都市計画決定（変更）に係る課題を整理する必要がある。	課題	・都市環境や社会情勢の変化に対応した持続可能なまちづくりを推進するため、継続的に検討を図る必要がある。 ・「釧路都心部まちづくり計画」を推進するため、必要となる都市計画決定（変更）に係る課題を整理する必要がある。
今後(令和7年度以降)の方向性	・「釧路圏都市計画（釧路市、釧路町）都市計画区域の整備、開発及び保全」などに基づき、土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業に検討を行い、必要に応じて都市計画を定める。 ・「釧路都心部まちづくり計画」の進捗に伴い、必要となる都市計画決定（変更）に係る検討および関係機関協議を進める。	今後(令和8年度以降)の方向性	・「釧路圏都市計画（釧路市、釧路町）都市計画区域の整備、開発及び保全」などに基づき、土地利用、都市施設の整備及び市街地開発事業に検討を行い、必要に応じて都市計画を定める。 ・「釧路都心部まちづくり計画」の進捗に伴い、必要となる都市計画決定（変更）に係る検討および関係機関協議を進める。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	立地適正化計画推進事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	住宅都市部都市計画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路圏都市計画（釧路市、釧路町）都市計画区域の整備、開発及び保全の方針 第2次釧路市都市計画マスタープラン 釧路市立地適正化計画
目的と概要	釧路市立地適正化計画は、将来にわたって持続可能なまちとすることを目的にして、2017（平成29）年3月に策定し、2019（平成31）年3月に改訂を行っているが、2020（令和2）年に都市再生特別措置法が改正になり、居住の安全確保等の防災・減災対策の取組を推進する防災指針が位置づけられたことから、おおむね5年ごとに行う調査、分析および評価と合わせて、2023（令和5）年から改訂作業に取組むものである。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	7,914	4,653	
財源	一般財源	（千円）	4,174	2,717	0
	国道支出金	（千円）	3,740	1,936	
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（決算額）**	**令和7年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	14,272	14,776	0
	職員数	（人）	2.0	2.0	
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		30.4	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

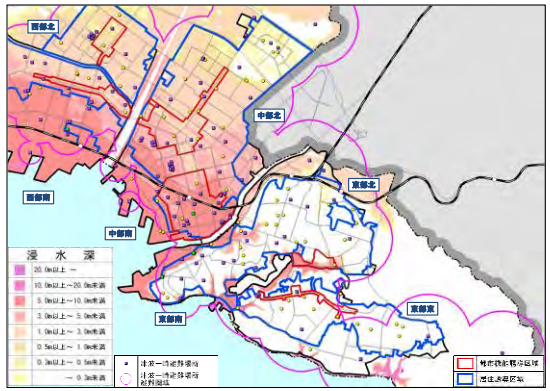
注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
1. 釧路市立地適正化計画の改訂	1. 釧路市立地適正化計画の改訂 令和6年 4月24日　第3回庁内策定委員会 令和6年 5月16日　第2回検討専門委員会 令和6年 6月28日　釧路市立地適正化計画業務委託契約（国費率1/2、国費1,936千円） 令和6年 7月31日　第3回庁内作業部会 令和6年 8月21日　第4回庁内策定委員会 令和6年 8月30日　第3回検討専門委員会 令和6年 9月27日　第4回庁内作業部会（書面開催） 令和6年10月11日　第5回庁内策定委員会（書面開催） 令和6年10月31日　第4回検討専門委員会 令和6年12月 2日　都市計画審議会（予備審査） 令和6年12月12日　12月定例会経済建設常任委員会報告(素案) 令和6年12月19日　パブリックコメント（1月17日迄） 令和7年 1月20日　第5回庁内作業部会 令和7年 1月31日　第6回庁内策定委員会（書面開催） 令和7年 2月 6日　都市計画審議会（本審査） 令和7年 3月11日　2月定例会経済建設常任委員会報告(完成)

【参考】都市情報と防災指針のハザード情報の重ね合わせ（例：居住誘導区域と津波一時避難場所カバー圏の重ね合わせ）

津波（L2）　✖　避難施設　▶　津波一時避難場所の利用可否



3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：終了
課題	・自助、共助、公助の考え方の理解を高め、防災・減災対策のまちづくりに資する実効性の高い効果的な目標の設定や取組の位置づけ、居住誘導区域のうち災害リスクが高く避難が容易ではない区域についての見直し検討など、検討専門委員会で示された課題を整理する必要がある。	課題	・特になし
今後(令和7年度以降)の方向性	・検討専門委員会などの議論を踏まえ、防災指針の作成を含めた釧路市立地適正化計画の改訂を適切に行う。（令和6年度中の改訂を予定している） 令和7年度以降については、令和12年度頃に予定されている区域マス、都市マスの見直しや、「釧路都心部まちづくり計画」などの進捗に合わせ、必要に応じて改訂する。	今後(令和8年度以降)の方向性	・令和8年度以降については、令和12年度頃に予定されている区域マス、都市マスの見直しや、「釧路都心部まちづくり計画」などの進捗に合わせ、必要に応じて改訂する。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	立地適正化計画推進補助金＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	住宅都市部都市計画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市立地適正化計画
目的と概要	立地適正化計画の推進のため、立地適正化推進補助金を運用し、コンパクトなまちづくりの具現化を図る。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

■釧路市立地適正化推進補助金制度の経過

2017(H29)年3月	釧路市立地適正化計画を策定
2017(H29)年10月	釧路市立地適正化推進補助金交付要綱を策定(補助金制度の創出)
2019(R31)年3月	釧路市立地適正化計画を改訂(居住誘導区域の追加)
2020(R2)年3月	誘導施設2件に対し補助金交付決定

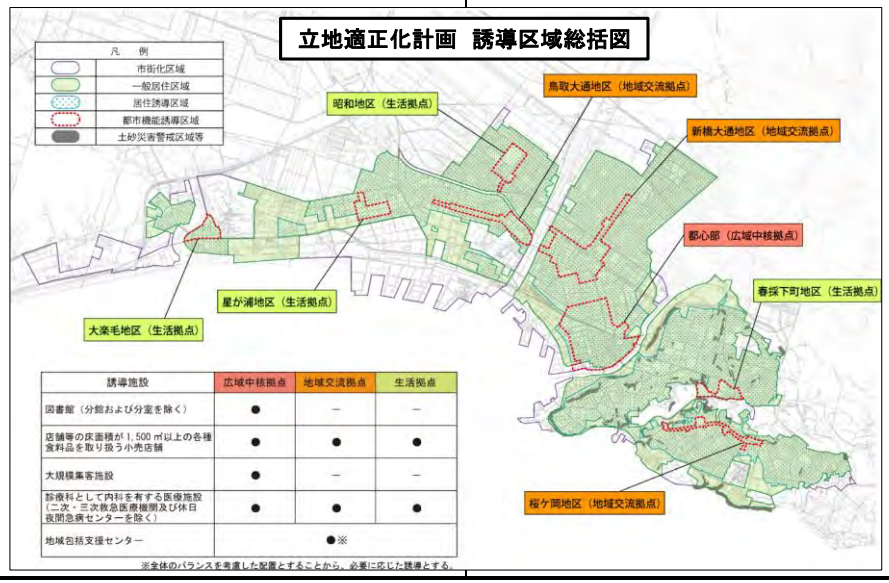
①立地適正化推進補助金
・対象施設　2件
・交付総額　5,000千円
（10年間交付の6年目）

(2)事業の実績と成果

■拠点地区のおける誘導施設（補助対象）の立地状況（令和６年度末時点）

拠点分類	地区	大規模集客施設	食料品小売店(1,500m2以上)	内科を有する医療施設
広域中核拠点	都心部	未立地	立地済	誘導済
地域交流拠点	鳥取大通地区		誘導済	立地済
	新橋大通地区		立地済	立地済
	桜ケ岡地区		立地済	立地済
生活拠点	大楽毛地区		未立地	未立地
	星が浦地区		立地済	未立地
	昭和地区		立地済	立地済
	春採下町地区		立地済	立地済
備　考		上限1億5,000万円(1,500万円/年)	上限2,000万円(200万円/年)	上限3,000万円(300万円/年)

①立地適正化推進補助金
・対象施設　2件
・交付総額　5,000千円
（10年間交付の6年目）



【予算・決算データ】		令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額	（千円）	5,000	5,000	5,000
財源	一般財源（千円）	0	5,000	5,000
	国道支出金（千円）			
	地方債（千円）			
	使用料・手数料（千円）			
	その他特定財源（千円）	5,000		

【参考データ】		令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費（千円）	4,282	4,433	4,463
	職員数（人）	0.6	0.6	0.6
参考②	市民一人あたりの費用（円）		32.7	
	市民一人あたりの将来負担額（円）		0.0	

注1)　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2)　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・立地適正化計画に位置付けるまちづくりの実現に向けては、市民、事業者の理解、協力の下、長期間に渡り息の長い取組を継続的に進めていくことが必要である。	課題	・立地適正化計画に位置付けるまちづくりの実現に向けては、市民、事業者の理解、協力の下、長期間に渡り息の長い取組を継続的に進めていくことが必要である。
今後(令和7年度以降)の方向性	・都市機能誘導区域内において対象となる誘導施設を整備する事業者への補助金を交付する。	今後(令和8年度以降)の方向性	・都市機能誘導区域内において対象となる誘導施設を整備する事業者への補助金を交付する。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	釧路駅周辺整備推進事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	都市整備部都心部まちづくり推進室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第2次釧路市都市計画マスタープラン 釧路市地域公共交通計画 釧路都心部まちづくり計画【事業構想編】 都心部地区交通戦略
目的と概要	まちの顔である釧路駅周辺の再整備（都心部道路網の再編や土地区画整理事業等の面的整備）を推進し、東北海道の中核都市として、拠点機能の充実と賑わいの創出を図る。

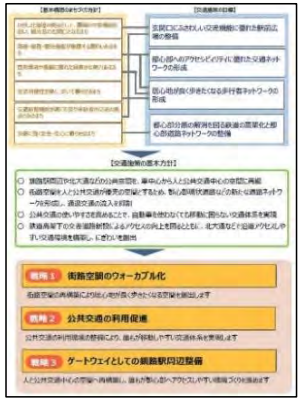
【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	72,507	26,136	11,449
財源	一般財源	（千円）	2,162	1,441	3,449
	国道支出金	（千円）	11,000		
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	59,345	24,695	8,000
【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	21,408	22,164	22,314
	職員数	（人）	3.0	3.0	3.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		171.0	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

(1)釧路都心部まちづくり計画の推進検討
・鉄道高架を基本としたまちづくりの実現に向けて、「釧路都心部まちづくり計画【事業計画編（仮）】」を策定をする。
・駅前の公共空間の利活用について市民と共に検討することを目的に、社会実験を検討して実施する。



左：釧路都心部まちづくり計画【事業構想編】
右：都心部地区交通戦略

(2)街路の概略設計・予備設計
・鉄道高架後の高架下道路の概略設計を実施する。

(3)土地区画整理事業の事業化検討
・土地区画整理の事業計画（案）の作成に向けた検討を進める。

(2)事業の実績と成果

(1)釧路都心部まちづくり計画の推進検討
◎社会実験の実施に向けたワークショップを2回(7/23、8/22)、社会実験実行委員会を2回（9/27、10/16）実施し、社会実験実行委員会が10月に場づくり社会実験「まちなか style project」を開催した（10/27）。
◎RINK釧路まちづくり交通戦略会議を開催した（5/29）。

左：社会実験ワークショップの開催状況
右：社会実験実行委員会の開催状況

左：社会実験の開催状況
右：RINK釧路まちづくり交通戦略会議（1回開催）

◎釧路市長選以降、釧路駅周辺の再整備に関する新たな方針が示されたため、「釧路都心部まちづくり計画」の今後の進め方について、鶴間市長と有識者との意見交換を実施した（11/28、2/10）。
(2)街路の概略設計・予備設計
◎鉄道高架後の高架下道路の概略設計業務を実施した。
(3)土地区画整理事業の事業化検討
◎新たな方針が示されたことにより、これまでの検討内容の変更が必要となる可能性が生じたため、事業計画（案）の作成に向けた検討は行わなかった。

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・関係機関（国土交通省、北海道、鉄道事業者）との協議を踏まえつつ、街路整備事業や土地区画整理事業などの各検討を進めていく必要がある。 ・街路空間の利活用などの社会実験を実施し、都心部地区交通戦略を推進する必要がある。	課題	・釧路駅周辺の再整備に関する新たな方針が既存計画へ与える影響等を確認する必要がある。 ・関係機関（国土交通省、北海道、鉄道事業者）との協議を踏まえつつ、街路整備事業や土地区画整理事業などの各検討を進めていく必要がある。 ・街路空間の利活用などの社会実験を実施し、都心部地区交通戦略を推進する必要がある。
今後(令和7年度以降)の方向性	・関係機関（国土交通省、北海道、鉄道事業者）と協議を行う。 ・街路整備事業の予備設計や土地区画整理事業の事業化に向けた検討を進める。 ・都心部地区交通戦略を推進する。	今後(令和8年度以降)の方向性	・関係機関（国土交通省、北海道、鉄道事業者）と協議を行う。 ・街路整備事業の予備設計や土地区画整理事業の事業化に向けた検討を進める。 ・都心部地区交通戦略を推進する。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	公共交通活性化事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市都市計画マスタープラン 釧路市立地適正化計画 釧路都市圏の都市交通マスタープラン
目的と概要	人口減少や少子高齢化、自動車依存の高まりにより、バスなどの公共交通利用者が減少し、路線の確保・維持が課題となっている。 持続可能な公共交通を実現するため、過度に自動車へ依存する社会基盤を見直し、まちづくりと一体となった、利用者のニーズを把握した適切な公共交通体系の再構築を検討する。また、JR北海道単独では維持困難とされた釧網本線等の存続と活性化を図るため、沿線自治体等と連携した取組みを進める。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	2,076	1,510	32,161
財源	一般財源	（千円）	2,076	1,132	22,161
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）		378	10,000

【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	10,704	11,082	11,157
	職員数	（人）	1.5	1.5	1.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		9.9	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

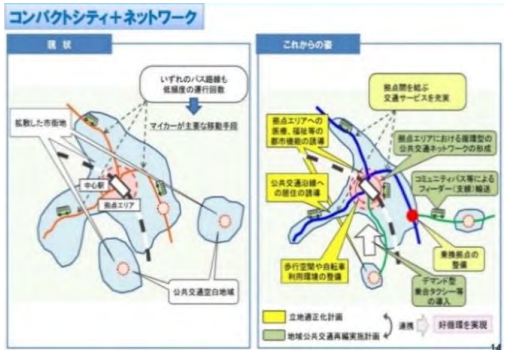
2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①地域公共交通活性化協議会の開催
　法定協議会である地域公共交通活性化協議会の事務局として、地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づいた事業実施に向けた協議を行うとともに、釧路市として負担金を支出し協議会の運営を支援する。

②地域公共交通利便増進実施計画の着実な推進
　利便増進実施計画の進捗管理及び路線バスキャッシュレス化について商業施設等と連携した周知活動を行い、公共交通の利用促進を図る。

≪参考：地域公共交通のめざすイメージ≫



③JR釧網本線維持活性化沿線協議会・関連部会の開催及び取組みの実施
　JR釧網本線維持活性化沿線協議会、同作業部会及びJR釧網本線維持活性化実行委員会の事務局として、JR北海道や沿線自治体とともに釧網本線の維持・活性化に向けた取組みを進めるとともに、釧路市として負担金を支出し協議会の運営を支援する。

(2)事業の実績と成果

①地域公共交通活性化協議会の開催
　5回開催（R6 6月（2回）・8月、R7 1月・3月）

②地域公共交通利便増進実施計画の着実な推進
　路線バスのキャッシュレス決済や循環バスぐるっと、バスロケーションシステム、イベントの実施について広報くしろでの周知を行った。
　併せて、「バスでおでかけプロジェクト」や「バスふれあいイベント」を実施し、公共交通の利用促進を図った。

▲バスふれあいイベント
（多良福まつり会場内）

▲広報くしろ7月号
（イベントの周知）

③JR釧網本線維持活性化沿線協議会・関連部会の開催及び取組みの実施
・協議会（1回）、作業部会（2回）、実行委員会（2回）開催
・釧網本線の抜本的な改善方策の検討に繋げるための取組みとして、繁忙期に車両を増結のうえ指定席を導入する実証運行、3日間乗り降り自由の釧網線フリーパス販売に係る補助、サイクルトレインモニターツアー、観光列車運行時の沿線駅でのおもてなし等を実施した。

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：拡充
課題	・まちづくりや観光振興等との一体性を確保した上、地域特性に応じた効率的で利便性の高い公共交通網を形成するため、市民や事業者と認識を共有化することが重要である。 ・釧網本線等の維持・活性化に向け、関係機関が一体となった取組みが必要である。	課題	・まちづくりや観光振興等との一体性を確保した上、地域特性に応じた効率的で利便性の高い公共交通網を形成するため、市民や事業者と認識を共有化することが重要である。 ・地域公共交通計画の改訂に向け、利用実態や利用者ニーズ等を調査する必要がある。 ・釧網本線等の維持・活性化に向け、関係機関が一体となった取組みが必要である。
今後(令和7年度以降)の方向性	・地域公共交通計画（旧地域公共交通網形成計画）の取組みを推進するため、令和元年度に策定した地域公共交通再編実施計画に基づく、段階的な路線再編とその効果検証を行っていく。併せて、利用促進策を引き続き実施していく。 ・釧網本線等の維持・活性化に向け、JR北海道や沿線自治体と連携して取組みを進めて行く。	今後(令和8年度以降)の方向性	・地域公共交通計画の取組みを推進するため、令和元年度に策定した地域公共交通利便増進実施計画に基づく、段階的な路線再編とその効果検証を行っていく。併せて、利用促進策を引き続き実施していく。 ・調査結果を基に地域公共交通計画を改訂し、持続可能な公共交通網の形成を目指す。 ・釧網本線等の維持・活性化に向け、JR北海道や沿線自治体と連携して取組みを進める。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	生活交通バス路線運行維持対策補助金＜9月補正＞＜2月補正＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市都市計画マスタープラン 釧路市地域公共交通計画 釧路市地域公共交通利便増進実施計画
目的と概要	路線バスは、移動手段を持たない地域住民にとって必要不可欠でありながら、人口減少や自動車保有台数の増加により、輸送人員が減少し地域住民の生活に必要なバス路線の維持が困難となっている。このようなことから、生活交通路線として必要なバス路線を維持・確保するため、赤字路線に対して補助金を交付することで、地域住民の足の確保に努めている。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	274,836	276,702	0
財源	一般財源	（千円）	274,836	276,702	0
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	6,422	6,649	0
	職員数	（人）	0.9	0.9	
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		1,810.0	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①地域間幹線系統確保維持費
●国及び道の補助金減額等に係る釧路市生活交通路線維持対策費補助金交付要綱制度分
・経常収益見込額が経常費用見込額の11/20に満たないものの補填
・みなし運行回数による減額補填分
平均乗車密度（1回の運行当たりの輸送人数）が5人未満の路線については、補助対象経費の一部が減額されるため、その減額分を補填
・経常費用実績額と経常費用見込額との差額補填分
経常費用実績額が経常費用見込額を上回った場合に生じる差額の補填
②広域生活交通路線維持費
●北海道生活交通路線維持対策事業費補助金交付要綱制度分補助対象経費の1/2を補助、道の補助金減額等に係る釧路市生活交通路線維持対策費補助金交付要綱制度分
・経常収益が標準経常費用の11/20に満たないものの補填
・みなし運行回数による減額補填分
平均乗車密度（1回の運行当たりの輸送人数）が5人未満の路線については、補助対象経費の一部が減額されるため、その減額分を補填
・実車単価と地域標準単価との差額補填分
実車キロ当たり単価が地域標準単価を上回った場合に生じる差額の補填
③市町村生活バス路線運行費
●北海道生活交通路線維持対策事業費補助金交付要綱制度分補助対象経費の9/10を補助
④市町村単独補助路線維持費
●釧路市生活交通路線維持対策費補助金交付要綱制度分、釧路市生活交通路線維持対策費補助金の特例に関する要綱制度分
・市町村単独補助路線の欠損額を補助
⑤地域内フィーダー系統確保維持費
●釧路市生活交通路線維持対策費補助金交付要綱制度分
・地域内フィーダー系統確保維持費の国庫補助を除いた欠損額を補助

(2)事業の実績と成果

①地域幹線系統確保維持費
補助金：125,301千円（釧路根室線など13系統）

くしろバス（株）	9系統	92,510千円
阿寒バス（株）	3系統	21,105千円
くしろバス（株）、根室交通（株）	1系統	11,686千円

②広域生活交通路線維持費
補助金：21,889千円（晴海線など3系統）

くしろバス（株）	3系統	21,889千円

③市町村生活バス路線維持費
補助金：18,842千円（阿寒本町線（山花経由））

阿寒バス（株）	1系統	18,842千円

④市町村単独補助路線維持費
補助金：98,764千円（新富士新野線など20系統）

くしろバス（株）	13系統	67,526千円
阿寒バス（株）	7系統	31,238千円

⑤地域内フィーダー系統確保維持費
補助金：11,906千円（ぐるっとなど5系統）

くしろバス（株）	1系統	3,135千円
阿寒バス（株）	4系統	8,771千円

◎成果
生活交通路線として必要なバス路線を維持・確保した。また、バス利用は回復基調にあるものの、経営状況の回復には至っておらず不安定となっているバス事業者のキャッシュフローの安定化をはかるため、一部を前倒しで支出することで事業者の経営を支援した。

10月支払額
くしろバス(株)　142,909千円
阿寒バス(株)　68,327千円

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・人口減少などに伴うバス利用者の減少。 ・不採算路線などの路線存続	課題	・人口減少などに伴うバス利用者の減少 ・不採算路線などの路線存続 ・バスの運転手不足
今後(令和7年度以降)の方向性	・移動手段を持たない利用者には必要不可欠であることから、バス事業者との連携をさらに強化し、今後も生活交通バス路線を維持及び確保する。 ・国や道に対して、継続的な支援や補助内容の強化を要請していく。	今後(令和8年度以降)の方向性	・移動手段を持たない利用者には必要不可欠であることから、バス事業者との連携をさらに強化し、今後も生活交通バス路線を維持及び確保する。 ・国や道に対して、継続的な支援や補助内容の強化を要請していく。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	旧日本銀行釧路支店活用促進事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	リバーサイドの景観や賑わいづくりにとって重要な役割を果たしている旧日本銀行釧路支店の建物は、多くの市民の思いを受けて平成28年に外観の保存を目的に取得し、建築から70年が経過している。老朽化が進み、利活用を図るためには耐震改修工事（取得時点の積算で約15億円とされている）が必要であり、市内外より建物存続の手法や活用方法について幅広く提案を募り、さまざまな視点で方向性を探る。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	38	740	803
財源	一般財源	（千円）	38	740	803
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	3,568	3,694	3,719
	職員数	（人）	0.5	0.5	0.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		4.8	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
①敷地内草刈の実施	①敷地内草刈の実施 ・施設の維持管理のため、敷地内草刈りを1回実施。
②釧路市旧日本銀行釧路支店活用事業企画提案公募型プロポーザル審査委員会の開催	②釧路市旧日本銀行釧路支店活用事業企画提案公募型プロポーザル審査委員会の開催 竣工から70年以上が経過しても存在感を持ち続ける旧日本銀行釧路支店とその周辺の釧路川リバーサイドエリアの賑わい創出をコンセプトとした活用を目的に、当該建造物の利活用について公募型プロポーザルにより広く企画提案を募集を行った。 ・第1回審査委員会：令和6年11月28日開催 ・参加表明募集期間：令和6年12月2日～12月26日 ・企画提案書募集期間：令和7年1月14日～5月19日

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価	令和6年度実施事業評価結果	評価　継続維持
課題	評価を実施していないため、空欄となります。	課題	・企画提案内容の実現に向けて、最優秀提案事業者と協議を行い事業の蓋然性を高めていく必要がある。
今後（令和7年度以降）の方向性	評価を実施していないため、空欄となります。	今後（令和8年度以降）の方向性	・昨今の物価高騰、人件費上昇等による建築コスト増加等の様々な課題を整理し、企画提案内容の実現に向けて、引き続き、最優秀提案事業者と協議を進めていく。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	市道整備事業＜繰越明許費＞＜当初＞
分類	令和5年度予算繰越明許事業 令和6年度予算の主要事業
所管課・室	都市整備部道路河川課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 釧路市橋梁長寿命化修繕計画 釧路市地域防災計画
目的と概要	生活道路の整備により、地区環境の向上や交通安全性の確保が図られる。 老朽化した橋梁を計画的に修繕することにより長寿命化と維持管理コストの縮減を図る。 釧路市津波避難計画に基づき、大津波発生に対応する緊急避難用道路を整備することで、市民の安全で円滑な避難を実現する。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
○舗装新設・排水設備費（市単独事業） 共栄橋通外3路線　道路標識補修　1式 測量設計・調査等　1式 ○社会資本整備総合交付金対象事業費 鳥取橋　長寿命化修繕 1式 久寿里橋　長寿命化修繕 1式 音別駅前通り（音別跨線橋）　上部工製作、製作加工　28,919t 大井の沢線（鹿島橋）　修繕　1式 釧路大橋通　ロードヒーティング更新　L＝100.00m ○緊急避難用道路整備事業費（交付金事業） 新釧路川左岸通2　載荷盛土工他 1式【当初】 新釧路川左岸通2　路盤工他 1式【R6.2月補正・R6年度繰越】 ○【ゼロ市】舗装新設・排水設備費（市単独事業） 鳥取北4線1　道路改良　L＝173m W＝11.0m 富士見緑ケ岡通外　交差点改良　1式 道路設計 1式	○舗装新設・排水設備費（市単独事業） 共栄橋通外3路線　道路標識補修　1式 測量設計・調査等　1式 ○社会資本整備総合交付金対象事業費 鳥取橋　長寿命化修繕 1式 久寿里橋　長寿命化修繕 1式 音別駅前通り（音別跨線橋）　上部工製作、製作加工 28,919t 大井の沢線（鹿島橋）　修繕　1式 釧路大橋通　ロードヒーティング更新　L＝100.00m ○緊急避難用道路整備事業費（交付金事業） 新釧路川左岸通2　載荷盛土工他 1式【当初】 新釧路川左岸通2　路盤工他 1式【R6.2月補正・R6年度繰越】 ○【ゼロ市】舗装新設・排水設備費（市単独事業） 鳥取北4線1　道路改良　L＝172.81m W＝11.0m 富士見緑ケ岡通外　交差点改良　1式 道路設計 1式

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	612,895	712,249	787,872
財源	一般財源	（千円）	147,135	105,060	39,992
	国道支出金	（千円）	180,960	242,889	253,680
	地方債	（千円）	284,800	364,300	494,200
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	49,952	51,716	52,066
	職員数	（人）	7.0	7.0	7.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		4,659.0	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		2,383.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

◎交付金事業については予算要求額に対する交付決定額が減額されたが、補正予算を活用し事業の進捗を図った。市単独事業については概ね順調に進捗し、市民生活の利便性及び交通安全性が向上した。

鳥取北4線1（整備前）

富士見緑ケ岡通外（整備前）

鳥取北4線1（整備後）

富士見緑ケ岡通外（整備後）

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・交付金事業の予算要求額に対する交付決定額が減額される傾向にあることから、事業執行については再検討が必要となる。 ・全道において跨線橋の点検や長寿命化修繕の業務が集中しており、また、補修に伴うJRとの個別協議において、条件整理等に時間を要している。	課題	・交付金事業の予算要求額に対する交付決定額が減額される傾向にあることから、事業執行については再検討が必要となる。 ・全道において跨線橋の点検や長寿命化修繕の業務が集中しており、また、補修に伴うJRとの個別協議において、条件整理等に時間を要している。
今後（令和7年度以降）の方向性	・交付金事業については、国の補正予算の活用や重点施策に合致する事業について検討を進め、橋梁長寿命化については、補助・単独による点検及び修繕を継続し、事業進捗を図る。 ・事業中及び未実施箇所の跨線橋について、JRと引続き個別協議を進める。 ・引続き関係機関との協議を進め、新釧路川左岸通の整備を進める。	今後（令和8年度以降）の方向性	・交付金事業については、国の補正予算の活用や重点施策に合致する事業について検討を進め、橋梁長寿命化については、補助・単独による点検及び修繕を継続し、事業進捗を図る。 ・事業中及び未実施箇所の跨線橋について、JRと引続き個別協議を進める。 ・引続き関係機関との協議を進め、新釧路川左岸通の整備を進める。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

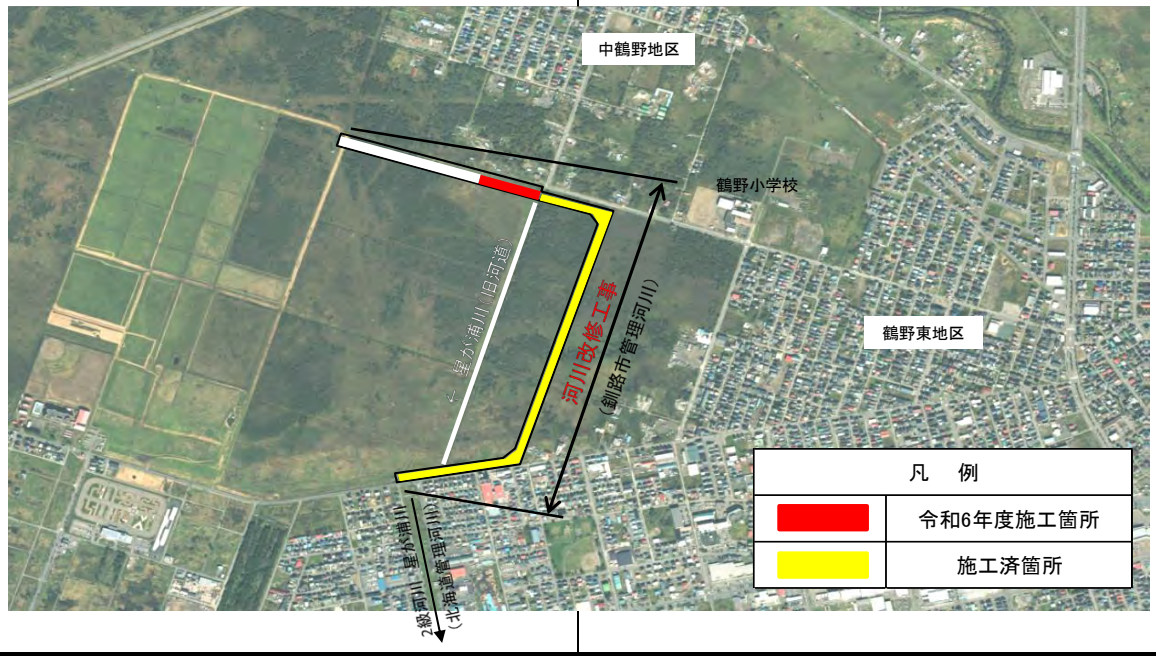
事業名	低地帯浸水対策事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	都市整備部道路河川課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	鶴野東、中鶴野地区の低地帯では、大雨等による道路の冠水や住宅浸水の被害が発生しており、地域住民の生命と財産を守り、防災上の観点からも早急な河川整備が求められている。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	387,499	300,216	348,629
財源	一般財源	（千円）	6,699	7,916	9,329
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）	380,800	292,300	339,300
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	13,558	14,037	14,132
	職員数	（人）	1.9	1.9	1.9
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		1,963.8	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		1,912.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
①地権者協議 星が浦川河川改修工事に当たり、工事ヤードの確保等地権者（土地所有者）との協議を継続実施する。 ②星が浦川河川改修工事 星が浦川河川改修及び旧河道の埋戻しを行う。	①地権者協議 星が浦川河川改修工事に当たり、工事ヤードの確保等地権者（土地所有者）との協議を継続実施した。 ②星が浦川河川改修工事 河川改修及び旧河道の埋戻しを行った。 河川改修：L=141m（全長：1,800m、施工総延長：1,394m） 旧河道埋戻し：L=830m



3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・河川整備と公共下水道（雨水）整備との相乗効果により水害の解消は図られることから関係部署との連絡を図る。	課題	・河川整備と公共下水道（雨水）整備との相乗効果により水害の解消は図られることから関係部署との連絡を図る。
今後（令和7年度以降）の方向性	・計画的に河川改修工事を進めていく。	今後（令和8年度以降）の方向性	・令和7年度星が浦川河川改修完了予定

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	道路整備要望推進事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	総合政策部企画課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	「北海道横断自動車道釧路地区早期建設促進期成会」による開通区間の利用促進キャンペーンや、建設状況・整備効果の広報活動に係る経費。阿寒～釧路西間が令和6年度に開通を迎えることから、拡充して実施するもの。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

令和６年度の「阿寒～釧路西」間の開通に向け、要望活動と併せて、地域住民等に整備効果を伝えることにより歓迎機運を高めるとともに、開通区間の利用促進により整備効果を高める。なお、PRにあたっては「ウェルカム道東道！！オールくしろ魅力発信協議会」と連携し、効率的なＰＲ活動を展開する。

１．くしろ港まつりにおけるＰＲ活動
２．親子現場見学会
３．道東自動車道移動パネル展
４．くしろ冬まつりにおけるＰＲ活動
５．オールくしろ魅力発信協議会との連携事業
６．開通に向けた事業の実施、開通式の実施

※「北海道横断自動車道釧路地区早期建設促進期成会」への負担金及び広報くしろ掲載費を計上。

(2)事業の実績と成果

１．くしろ港まつりにおけるＰＲ活動
　日程：令和６年８月３日（土）
　内容：パネル展示、パンフレット等の配布(400部配布)
２．親子現場見学会
　日程：令和６年10月12日（土）
　内容：阿寒ＩＣ、釧路西ＩＣの工事現場を見学44名
　　(15家族・親18名、子ども26名)参加
３．道東自動車道移動パネル展
　期間：令和６年10月～令和７年２月
　内容：期成会構成自治体でパネル展を実施
４．くしろ冬まつりにおけるＰＲ活動
　日程：令和７年２月２日（日）
　内容：パネル展示、パンフレット等の配布(150部)、
　　子ども向けイベントを実施
５．オールくしろ魅力発信協議会との連携事業
　同団体が実施した帯広市、札幌市等でのイベントに参加しＰＲを実施
６．開通に向けた事業の実施、開通式の実施
（１）カウントダウン看板点灯式
　日程：令和６年11月27日（水）
　内容：開通を周知する大型ＰＲ看板を市役所前に設置。開通までの日数をカウントダウンする電光掲示板の点灯式を実施
（２）橋名板取付会
　日程：令和６年11月27日（水）
　内容：開通区間の12カ所の橋梁に設置する「橋名板」の文字を市内の小・中学生に揮毫していただき、揮毫者による橋名板の取付会を開催
（３）道東自動車道（阿寒ＩＣ～釧路西ＩＣ）開通式
　日程：令和６年12月22日（日）
　内容：釧路市阿寒町公民館において開通記念式・鋏入れ式を開催。関係者約250名が参加
（４）道東自動車道　阿寒ＩＣ～釧路西ＩＣ　開通記念祝賀会
　日程：令和６年12月22日（日）
　内容：開通式終了後、釧路プリンスホテルにて開通記念祝賀会を開催。関係者214名が参加

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	801	2,775	1,194
財源	一般財源	（千円）	801	761	1,194
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）		2,014	

【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	7,136	7,388	7,438
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		18.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1)　釧路市民の人口　152,875 人(R7.3末現在)
注2)　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

3　事業実施上の課題と今後(令和8年度以降)の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：	令和6年度実施事業評価結果	評価：縮小
課題	評価を実施していないため、空欄となります。	課題	・本別～釧路間の全線開通により、移動時間の短縮のほか、観光振興や物流の効率化、防災の観点など様々な効果が期待されるものの、道東道の整備効果は根室までの開通により最大化されることから、今後も更なる延伸に向けて、利用促進や事業の必要性の周知を図る必要がある。
今後(令和7年度以降)の方向性	評価を実施していないため、空欄となります。	今後(令和8年度以降)の方向性	・開通を契機としたPR活動は一旦縮小するが、引き続き、別保尾幌道路、尾幌糸魚沢道路の整備促進及び根室までの延伸に向け、要望活動及び利用促進活動を実施する。なお、今後の利用促進については、根室市が事務局の「北海道横断自動車道釧路･根室間建設促進期成会」と協議し、その手法、役割分担を検討する。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	港湾施設整備事業＜9月補正＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部港湾空港課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	令和5年度の港湾施設定期点検における水深調査の結果、水深の浅い箇所が確認されたことから、船舶の航行の安全と東北海道全域への石油製品の安定供給のため、緊急的に必要最小限の浚渫を実施する。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）		85,393	
財源	一般財源	（千円）	0	85,393	0
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（決算額）**	**令和7年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	0	3,694	0
	職員数	（人）		0.5	
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		558.6	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

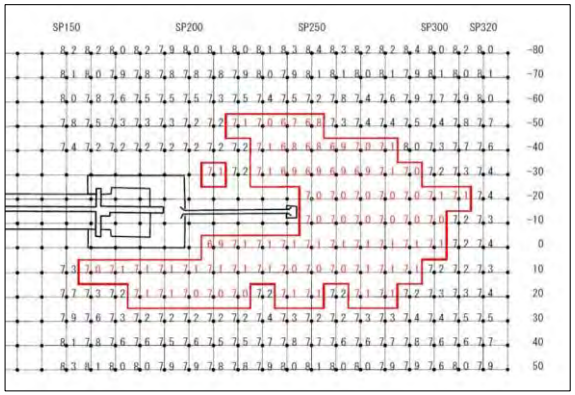
注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

○西港区石油桟橋−7.5m泊地の浚渫
- 東北海道の石油製品の安定供給のため、浚渫により必要最低限の水深である7.2mを確保する
- グラブ浚渫　V=4,916m3



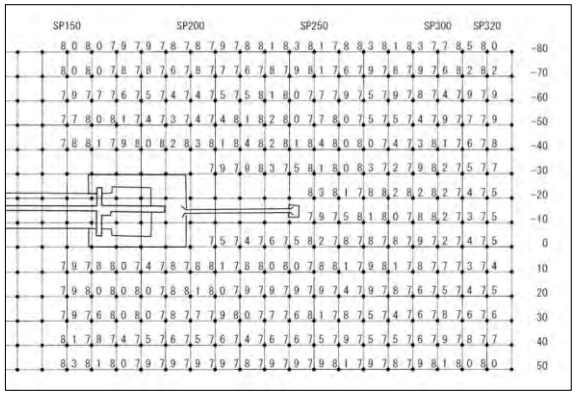
定期点検における水深図
（赤枠は7.2mより浅い範囲）

(2)事業の実績と成果

○西港区石油桟橋−7.5m泊地の浚渫
◎浚渫により最低限必要な水深7.2mを確保した。

◎グラブ浚渫　V=5,447m3

グラブ浚渫



浚渫後の水深図

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	評価を実施していないため、空欄となります。	課題	・必要最低限の浚渫としたため、今後計画水深まで掘り下げる必要がある。 ・2号・4号バース周囲の浚渫を行ったが、1号・3号バース周囲も土砂が堆積しているため、浚渫を行う必要がある。
今後（令和7年度以降）の方向性	評価を実施していないため、空欄となります。	今後（令和8年度以降）の方向性	・定期的に水深調査を実施し、水深の浅い箇所について、施設の重要性や緊急性を考慮したうえで浚渫を実施する。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	港湾計画推進事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部港湾空港課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路港港湾計画
目的と概要	港湾計画の実現に向けた関係機関との調整や関連計画の策定、社会情勢の変化に対応した港湾計画の見直しなどを実施する。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	19,943	39,612	80,550
財源	一般財源	（千円）	1,452	1,904	80,550
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	18,491	37,708	
【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	21,408	22,164	22,314
	職員数	（人）	3.0	3.0	3.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		259.1	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①釧路港将来ビジョンの策定
・地元関係者による釧路港将来ビジョン懇談会を組織し、釧路港将来ビジョンを策定する。

②釧路港長期構想の策定検討
・国土交通省などの関係行政機関や学識経験者などによる釧路港長期構想検討委員会を組織し、概ね20～30年先の長期的視野に立った釧路港の方針を検討する。

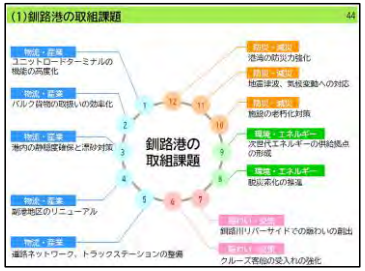
③釧路港漁業現況調査
・港湾計画改訂の基礎資料とするため、漁業現況調査を実施する。

(2)事業の実績と成果

①釧路港将来ビジョンの策定
・最終回となる、第3回釧路港将来ビジョン懇談会を開催し、「物流」「賑わい・交流」「環境・エネルギー」「防災」の4つの機能における、釧路港の将来の施策の方向性をとりまとめた。

（釧路港将来ビジョン概要版（抜粋））

②釧路港長期構想の策定検討
・釧路港長期構想検討委員会 第1回委員・幹事合同委員会を開催し、釧路港の背後圏の社会経済の動向などから、釧路港の取組課題について検討を行った。



（第1回合同委員会資料（抜粋））

③釧路港漁業現況調査
・魚種別の漁獲量や漁期などについてとりまとめた。

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・ひがし北海道の物流拠点、並びに、地域の賑わい創出に貢献する港湾になるべく、港湾計画を策定する。	課題	・ひがし北海道の物流拠点、並びに、地域の賑わい創出に貢献する港湾になるべく、港湾計画を策定する。
今後（令和7年度以降）の方向性	・令和6年度に策定する釧路港将来ビジョンを踏まえ、釧路港長期構想を策定し、港湾計画の改訂を実施する。	今後（令和8年度以降）の方向性	・令和7年度に策定する釧路港長期構想を踏まえ、港湾計画の改訂を実施する。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	国直轄港湾工事負担金＜繰越明許費＞＜当初＞
分類	令和5年度予算繰越明許事業 令和6年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部港湾空港課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路港港湾計画
目的と概要	ひがし北海道の物流拠点港湾として、西港区の施設整備を実施することで、内外貿物流機能を強化し、効率的な海上輸送を構築する。また、東港区の老朽化施設対策を実施することで、港内の静穏度の向上など、船舶の航行の安全を図る。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	611,486	632,010	990,300
財源	一般財源	（千円）	186	110	100
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）	611,300	631,900	990,200
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	7,136	7,388	7,438
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		4,134.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		4,133.4	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①防波堤（島）
・港内側に浚渫土砂を活用した盛土マウンドを造成し、ブルーカーボン藻場の創出に寄与する。

②防波堤（新西）
・港内に静穏水域を確保するとともに、航路や泊地への漂砂の流入を軽減し、船舶の航行の安全に寄与する。

③防波堤（西）（改良）
・老朽化対策を実施し、港内に静穏水域を確保し、船舶の航行の安全に寄与する。

④航路・泊地（-14m）
・航路や泊地に流入した漂砂を浚渫し、船舶の航行の安全に寄与する。

(2)事業の実績と成果

①防波堤（島）
◎背後盛土工、起伏工1式

背後盛土 施工状況

②防波堤（新西）
◎上部工1式

上部工 施工状況

③防波堤（西）（改良）
◎上部工、消波工ほか1式

消波工 施工状況

④航路・泊地（-14m）
◎浚渫工、土砂処分場造成ほか1式

浚渫工 施工状況

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・国費の予算査定により、事業の進捗がやや遅れている。	課題	・国費の予算査定により、事業の進捗がやや遅れている。
今後(令和7年度以降)の方向性	・事業の効果を早期に発現させるために、国費の予算確保について、国土交通省に要望する。	今後(令和8年度以降)の方向性	・事業の効果を早期に発現させるために、国費の予算確保について、国土交通省に要望する。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	港湾開発整備促進事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	水産港湾空港部港湾空港課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略
目的と概要	港湾関係者との連携によるポートセールスの実施及びクルーズ客船の安定的寄港に向けての戦略的な誘致と歓迎行事等の実施により、賑わいのある港づくりを進め、釧路港の利用促進を図るとともにひがし北海道の拠点港としての役割を果たす。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	7,005	10,561	13,957
財源	一般財源	（千円）	7,005	10,561	13,957
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（決算額）**	**令和7年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	7,136	7,388	7,438
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		69.1	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

①ポートセールスの取り組み
ポートセミナーの開催
・実施主体：釧路市、釧路商工会議所、釧路港湾振興会、釧路港湾協会、釧路食料基地構想協議会
・実施内容：船社、荷主等を招致し、釧路港の利便性を説明

【ポートセールス】
■ソフト事業
□官民一体となりポートセミナーを開催
□港湾事業者個々の営業活動等

【港湾の整備】
■ハード事業
□港湾施設の整備促進や荷役環境整備等

【予想される事業効果として】
■物流定期航路の誘致開設
■集荷活動の拡大等

②クルーズ客船誘致、受入事業
・クルーズ客船受け入れツールの充実や、ホスピタリティの向上支援
・クルーズ船社への訪問、寄港要請

③フェリー航路就航へ向けた船社訪問

(2)事業の実績と成果

①ポートセールスの取り組み
◎ポートセミナー活動実績（直接的事業効果指標）
・東京と道内（北見）で開催し、釧路港のPRを行った。
11/21 北見開催（65社121名）
2/5東京開催（113社235名）

◎取扱貨物量（間接的事業評価指標）

暦年	総計	国外		国内	
		輸出	輸入	移出	移入
R5	13,522,915	147,545	2,706,478	4,353,305	6,315,587
R6	13,595,149	128,102	2,627,409	4,330,427	6,509,211

※R6は速報値　　単位：t

②クルーズ客船誘致、受入事業
◎クルーズ客船年度別入港実績

年度	寄港隻数			乗船客数（人）	入港料（円） 岸壁使用料（円）
	合計	邦船	外国船		
R5	12	1	11	6,989	785,566 5,180,659
R6	14	0	14	19,234	1,831,973 7,543,088

◎クルーズ客船誘致のための船社訪問 等
日本船社（1社）、海外船社（2社）、旅行代理店（2社）
◎海外クルーズ船社招請
オーシャニアクルーズ社　アジア担当ツアーマネージャー

③フェリー航路就航へ向けた船社訪問
◎フェリー船社（1社）

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・新規貨物の発掘や新規航路開拓につながるよう、新たなセールス方法の検討が必要 ・クルーズ誘致、受入事業は、①受入体制の充実　②旅客船の大型化への対応　③経済波及効果を高める対応の検討が必要 ・2024年問題として、陸送の輸送力低下が予想されるため、モーダルシフトの推進に向けた釧路港のPR内容の検討が必要	課題	・新規貨物の発掘や新規航路開拓につながるよう、新たなセールス方法、PR内容の検討が必要 ・クルーズ誘致、受入事業は、①受入体制の充実　②旅客船の大型化への対応　③経済波及効果を高める対応の検討が必要
今後（令和7年度以降）の方向性	・背後圏の貨物情報をPR材料とした船社訪問や港湾関連事業者と連携したセミナーの開催により新規航路開拓につなげる等の様々な事業を推進していく。 ・クルーズ船社のニーズに合った観光コンテンツの磨き上げ（観光振興室等との連携） ・クルーズ客船の寄港によるまちなかや地域経済の活性化に資する取り組みの検討 ・経済効果の高い1日停泊の実現	今後（令和8年度以降）の方向性	・背後圏の貨物情報をPR材料とした船社訪問や港湾関連事業者と連携したセミナーの開催により、新規航路開拓につなげる等の様々な事業を推進していく。 ・充実したクルーズ受入体制を図るため、地元学生のクルーズ参加促進を図る。 ・クルーズ乗客をターゲットとした地元産品の消費拡大を図る取り組みを検討。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	空港拡張整備促進事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第二期釧路市観光振興ビジョン
目的と概要	釧路空港はひがし北海道の拠点空港として極めて重要な役割を担っていることから、航空会社への要請活動や航空会社と連携した利用促進事業の実施により、航空路線の維持及び利用客数の増加につなげていく。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	11,005	10,936	12,546
財源	一般財源	（千円）	55	7,936	9,546
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	10,950	3,000	3,000
【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	7,136	7,388	7,438
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		71.5	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

【要請活動及び利用促進事業】

①航空会社要望
　東京便の機材大型化、大型化機材の増便、運航期間延長等の要請活動、並びに、中部・伊丹線・関西線の通年運航及び運航延長への要請活動の実施

②航空会社（JAL・ANA・AIRDO・HAC）とタイアップしたWEB等による利用促進事業の実施

③季節便就航などにおける歓迎行事の実施（各関係機関との連携）

④「航空乗継利用促進協議会」合同キャンペーンの実施

⑤Peach関西線における利用促進事業の実施

⑥名古屋・大阪地区観光プロモーション事業の実施

(2)事業の実績と成果

【要請活動及び利用促進事業】

①航空会社要望（令和6年10月1日～4日）
◎要望先：日本航空、全日本空輸、フジドリームエアラインズ
　　Peach Aviation、AIRDO、北海道エアシステム
◎参加団体：釧路市、釧路観光コンベンション協会、阿寒観光協会まちづくり推進機構、釧路商工会議所、北海道エアポート

②航空会社（JAL・ANA・AIRDO・HAC）とタイアップしたWEB等による利用促進事業の実施
《JAL》JAL公式WEB/SNS媒体で釧路記事紹介PR　等
《ANA》ANA公式SNS/メディア招へいによる路線PR　等
《AIRDO》会員向けキャンペーン/SNS広告によるPR　等
《FDA》冬の国内チャーター便誘致を目的に、旅行会社を招へい

③季節便就航などにおける歓迎行事の実施
◎Peach関西線/JAL中部線/ANA伊丹線等の初便歓迎を実施

④「航空乗継利用促進協議会」合同キャンペーンの実施
◎「航空乗継利用促進協議会（事務局：石川県）主催の乗継利用者対象合同キャンペーン」参加。当選者へ地域産品を提供

⑤Peach関西線における利用促進事業の実施
◎Peach公式ひがし北海道ページを活用したWEB/SNS広告、Peach旅行商品の広告宣伝を実施

⑥名古屋・大阪地区観光プロモーション事業の実施
◎帯広市、北海道エアポートと連携し中部国際空港PRイベント参加、中部地区メディア（TV・新聞社）告知等を実施
◎北海道エアポートと連携した関西プロモーション参加

【事業成果】
　各種プロモーションでは、TVや新聞、WebやSNSなど様々な媒体を通じて、地域の魅力を伝えるとともに、路線の利用促進を図ったことで、釧路への旅行に目を向けていただき、各路線の乗降客数及び利用率の増加につなげることができた。

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・釧路空港における乗降客数の増加、季節便等の運航期間延長に向けて、航空会社や北海道エアポート等と連携した利用促進の取組強化に加え、当地域からの送客強化を継続して進める必要がある。	課題	・釧路空港における乗降客数は増加傾向にあるが、現在運航している路線の維持及び拡大を目指し、航空会社や北海道エアポート等と連携した利用促進事業は継続していく必要がある。また、航空路線の維持・拡大には利用率の増加が必須であるが、特に釧路地域からの送客に係る利用促進を図っていく必要がある。
今後(令和7年度以降)の方向性	・航空会社や北海道エアポート、関係自治体等と連携して、スケールメリットを活かしたひがし北海道プロモーションや航空利用促進を進めていく。	今後(令和8年度以降)の方向性	・くしろ地域広域観光誘致推進協議会を中心に、航空会社や北海道エアポート、関係自治体等と連携し、航空路線の利用率向上及び利用客数の増加に向けた利用促進を進めていく。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	釧路空港国際化推進事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	産業振興部観光振興室
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 第二期釧路市観光振興ビジョン
目的と概要	くしろ広域観光誘致推進協議会を主体とした、海外航空会社や旅行会社への要請活動や観光プロモーションの実施により、国際定期便・チャーター便誘致に繋げ、海外からの観光客増加による当地域への観光消費・経済波及効果を図る。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	8,531	3,117	3,298
財源	一般財源	（千円）	8,531	3,117	3,298
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（決算額）**	**令和7年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	7,136	7,388	7,438
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		20.4	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

1．くしろ広域観光誘致推進協議会事業
　釧路・根室管内の行政・観光協会・民間企業等71団体で構成する本協議会において、釧路空港の管理・運営を行う北海道エアポートをはじめ、北海道運輸局・北海道観光振興機構等と連携して国際定期便・チャーター便誘致並びに広域連携による海外観光客誘致事業を実施し、地域の魅力を生かした交流人口の拡大と経済振興を図る。
（1）国際航空路線誘致に向けた海外航空会社等への要請活動
（2）海外メディア・旅行会社等招聘

(2)事業の実績と成果

1．くしろ広域観光誘致推進協議議会事業
（1）国際航空路線誘致に向けた海外航空会社等への要請活動
　◎R6.8.22～23台湾航空会社及び旅行会社へ要請活動
　（航空会社3社、旅行代理店7社）

チャイナエアライン訪問

山富國際旅行社訪問

（2）海外メディア・旅行会社等招聘
①オランダメディア招聘事業
　オランダ旅行雑誌と契約するカメラマン・ライターを招聘し、日本特集の発行に向けた釧路エリアの取材協力。
　連携：一般社団法人釧路観光コンベンション協会

炉端体験

瀧口氏にインタビュー

②JNTOフランクフルト事務所招聘事業
　フランクフルト事務所長を招聘し、釧路エリアの取材協力及び地域の魅力発信を実施。
　連携：一般社団法人釧路観光コンベンション協会

釧路川カヌー体験

③タイ旅行会社招聘事業
　タイ旅行会社3社3名を招聘し、北海道リピーター誘客促進を目的とした商品造成のため、釧路・阿寒・弟子屈エリアの取材協力を実施。

【事業成果】
　航空会社や旅行会社への要請、各国の旅行会社やメディアの招聘を実施し、釧路エリアのプロモーションによる誘客促進を図ることができ、訪日外国人の増加につながった。

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・引き続き国際航空路線誘致に向けた航空会社への要請とともに、受け入れ態勢の整備が必要である。	課題	・チャーター便運航の実現と誘客促進を図るためには、航空会社への要請のほか、合わせて旅行会社へのセールスや招聘を継続していく必要がある。
今後(令和7年度以降)の方向性	・国際線の誘致等を活動目的としている「くしろ広域観光誘致推進協議会」を中心に、北海道エアポート等と連携し、航空会社に対する要請活動や各種プロモーションを実施するなど、海外観光客の需要回復及び国際線誘致につなげていく。	今後(令和8年度以降)の方向性	・北海道エアポートや観光協会等の関係機関と連携し、主にターゲットとしている台湾を中心に、航空会社に対する要請活動や各種プロモーションの強化に取組み、海外観光客のさらなる誘客促進と国際線誘致に繋げていく。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	公営住宅等建設事業＜繰越明許費＞＜当初＞
分類	令和5年度予算繰越明許事業 令和6年度予算の主要事業
所管課・室	住宅都市部住宅課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2期釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略 釧路市住生活基本計画 釧路市公営住宅等長寿命化計画
目的と概要	建替事業主体から既存ストック活用へ転換を進める。 将来の既存ストック量を推計し、建替・改修等の事業を実施することで、維持管理コストの低減を図る。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	1,730,776	1,683,371	1,533,315
財源	一般財源	（千円）	26,433	12,987	32,114
	国道支出金	（千円）	832,543	804,984	667,501
	地方債	（千円）	871,800	865,400	833,700
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	21,408	22,164	22,314
	職員数	（人）	3.0	3.0	3.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		11,011.4	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		5,660.8	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）

注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

（堀川団地）
・B棟建設工事（建設年次：R5～7年度、1棟50戸）

（グリーン団地）
・B棟建設工事（1棟6戸）（繰越明許事業含む）

（まりも団地）
・B棟建設工事（1棟8戸）（繰越明許事業含む）

（川東団地）
・B棟建設工事（1棟4戸）（繰越明許事業含む）

（解体工事）
・白樺台C団地（14棟55戸）
・堤団地（3棟12戸）
・堀川団地D2・3（2棟60戸）
・美原団地M2（1棟50戸）

（長寿命化改善工事）
・朝日団地（特公賃）（2棟6戸）
・緑ケ岡団地GH2（1棟18戸）

（公営住宅等ストック改善）
・旭改良住宅浴室改善
・芦野団地避難器具改善（ゆうやけ・しつげん・みずばしょう）
・武佐団地浴室改善（R14）
・駒場団地福祉対応改善（S8　車椅子）

（業務委託）
・堀川団地C棟基本設計
・芦野団地長寿命化型改善工事実施設計（たんちょう）

(2)事業の実績と成果

◎各団地とも、計画通り実施した。

写真1
まりも団地B棟（木造2階・8戸）

写真2
グリーン団地B棟（木造平屋・6戸）

写真3
川東団地B棟（木造2階・4戸）

※武佐R14、駒場S8は、住替等によって見直しを行い未実施。

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・更新時期を迎える市営住宅が今後も多くあるため、既存市営住宅の劣化状況・地域の実情等を総合的に判断し、計画的な修繕や改善工事を行うことで、更新を平準化し、持続可能性の向上やライフサイクルコスト低減を図る必要がある。また、脱炭素社会実現に向けた施策もあり、ZEH水準の市営住宅へ建替えも検討が必要となっている。	課題	・長寿命化計画に基づき、計画的な修繕・改修を行ってきたが、更新時期をむかえる老朽化した住棟が多く、ストック削減の為に既存住棟への住替集約を行いたくても困難な状況となっており、建替えによる住替集約を進めていくことが必要なことから、建替事業の平準化を図る為にも、長寿命化計画の見直しを行う必要がある。
今後(令和7年度以降)の方向性	・堀川団地、まりも団地など事業着手済である団地整備事業を進める。 ・新たに脱炭素社会対応型改善（省エネルギー性能の高い設備への改修）の補助項目を用い、共用部を対象としたLED化を図る。	今後(令和8年度以降)の方向性	・令和8年から2ヵ年で長寿命化計画の見直しに着手する予定としており、ストックの適正化と建替事業の平準化を図るとともに、国が求める一次消費エネルギー削減に対応するZEH水準の要件に適合した公営住宅を整備していく。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	空家等対策事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	住宅都市部建築指導課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 釧路市空家等対策計画
目的と概要	適切に管理されていない空家等への対策に向け、空家等に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、釧路市の空家等の問題解消を図る。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	8,920	227,675	9,605
財源	一般財源	（千円）	4,460	114,151	5,105
	国道支出金	（千円）	4,460	113,524	4,500
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	10,704	11,082	11,157
	職員数	（人）	1.5	1.5	1.5
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		1,489.3	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画	(2)事業の実績と成果
1. 空家等対策計画の推進 適切に管理されていない空家等への対策を計画的に推進するため、当該計画に基づいた空家等対策協議会を開催する。	1. 空家等対策計画の推進 計画に基づいた施策の推進のため、空家等対策協議会を開催し、特定空家等の認定に係る意見や空家等に関する施策の進め方等についての協議を実施。 ・空家等対策協議会の開催　1回
2. 空家等の適正な維持管理の喚起 広報紙・ホームページ・パンフレット等により空家等の適正な維持管理等について喚起を行う。	2. 空家等の適正な維持管理の喚起 ・固定資産税の納税通知書に 啓発パンフレットを同封（57,950部） ・広報くしろに啓発記事を掲載 ・ホームページによる啓発
3. 特定空家等の認定 市内の特定空家等の調査を行い、認定を実施する。	3. 特定空家等の認定 ・特定空家等の認定及び特定空家等に対し行政指導を実施した。 ◎認定件数　2件　◎行政指導　2件 ・令和6年度末時点での特定空家等の件数　41件
4. 不良空家等除却補助制度の実施 ・補助額　除却工事費の1/3の額（上限300千円） ・予算件数及び予算額　30件　9,000千円	4. 不良空家等除却補助制度の実施 ◎補助金交付者　30件　8,996千円
5. 空家等に関する苦情・相談対応 ・市民からの空家等に対する苦情・相談等に対応する。 ・空き家等対策に関する協定を締結している民間専門家6団体と協力し、空き家無料合同相談会を開催する。 ※民間専門家6団体…北海道宅地建物取引業協会釧路支部 北海道建築士事務所協会釧路支部 釧路司法書士会　釧路弁護士会 釧路市建設事業協会 北海道行政書士会	5. 空家等に関する苦情・相談対応 ・市民からの通報があった空家等について、現地確認をし、管理が不適切な空き家の所有者に対して、指導を行った。 ◎通報件数　139件　　指導件数　359件 ・空き家無料合同相談会開催 ◎来談者　延べ37組（50名）（相談内容…売買・賃貸、解体、相続等）
6. 大規模空き建築物除却費補助制度の実施 ・補助額　除却費用のうち、補助対象経費の4/5の額（国2/5市2/5）	6. 大規模空き建築物除却費補助制度の実施 ・特定空家等の大規模空き建築物の除却に対して、工事費用の一部（補助対象経費の一部）を補助 ◎補助金交付者　1件　218,348千円

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・空き家の所有者に対して適切な管理に向けた指導をしても連絡がなく、改善も見られないものが多いことから、空き家又は今後空き家となる可能性が高い建物に対して、自らの問題であることを認識して貰うよう、改善及び予防策について広く啓発していく必要がある。 ・所有者が経済的理由により、空き家の除却ができないことが多いことから、国に対して除却経費に対する補助率のかさ上げ等の更なる支援強化を求めていく必要がある。	課題	・適切な管理がされていない空き家の所有者に対して、改善の指導を行い、修繕や除却に結び付いているものもあるが、中には改善が見られない空き家もあり、効果的な所有者への助言指導の実施や新たな空き家を発生させない取組みを行う必要がある。 ・空き家の改善が進まない理由として、所有者の経済的理由や近年の解体費の高騰などがあるため補助等の支援拡充を検討する必要がある。 ・大規模空き建築物（空きビル）への対応については、所有者への指導を繰り返し行った結果、今般、都心部にある特定空家等の空きビル1棟が解体された。このほかにも老朽度が高い空きビルが点在しており、継続して対策していく必要がある。
今後（令和7年度以降）の方向性	・パンフレットや広報紙のほか、セミナー活動などを通じて、空家等の適正管理の必要性を広く啓発し、管理不全の空家等の増加を防止する。 ・老朽化が著しい空家等の減少に向け、除却費の補助制度を継続するとともに、国に対して補助率かさ上げ等の支援強化を求めていく。 ・改正空家法が令和5年に施行されたことから、法や国の示すガイドライン等に応じた施策を推進する。 ・協定締結6団体や他団体等との関係を密にし、空家発生予防のセミナー開催や所有者（相続人）調査への助言など、空家問題解消に向けた具体的方策の検討及び方策を講じていく。	今後（令和8年度以降）の方向性	・空き家は私有財産であり、第一義的には所有者の責任において管理を行うものであることから、所有者に対して適切な助言や指導を行うとともに、新たな空き家を作らせないためにパンフレットの配布や広報誌・市HPでの周知啓発を行う。また、空き家対策協定を締結している民間専門家6団体と連携して、合同相談会や空き家セミナー開催するほか、空き家の解消に向けた方策も検討していく。 ・老朽度が高い空家等の改善に向けて、除却補助制度を継続するとともに、国に対して国の補助率嵩上げ等の支援強化を求めていく。 ・大規模空き建築物（空きビル）への対策については、所有者に対して適切な管理を求める助言指導を行うとともに、市単独では解決が困難であることからも国に対し、法的仕組みや財政支援等の要望を継続する。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	住宅エコリフォーム補助金＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	住宅都市部建築指導課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 釧路市住生活基本計画 釧路市環境基本計画
目的と概要	安心、安全で良質な住宅ストックの形成により、市民の住生活の向上を図るとともに市内住宅関連産業の促進に貢献することを目的として、市民が実施する一定基準の省エネ改修工事やバリアフリー改修工事の一部に補助金を交付する。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	4,578	4,464	6,662
財源	一般財源	（千円）	2,217	1,513	3,118
	国道支出金	（千円）	2,361	2,951	3,544
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（決算額）**	**令和7年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	7,136	7,388	7,438
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		29.2	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

1．住宅エコリフォーム補助金
(1)補助対象工事
〇省エネ改修工事（昭和56年6月1日以降に着工された建物）
省エネ基準（平成28年告示基準）に対応する開口部、躯体等の断熱改修工事
〇バリアフリー改修工事
〇省エネ改修とバリアフリー改修を同時に行う工事
(2)補助金額
①基本補助：補助対象金額10%以内。限度額50万円。
②高齢者同居加算：高齢者（65歳以上）と同居の場合、補助率を5%加算。限度額75万円。
③地域材利用加算：使用された地域材（10千円/㎥）を乗じて加算。
(3)予算額
・基本分 省ｴﾈ改修　500千円×4件=2,000千円
ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ改修　210千円×18件=3,780千円
・高齢者同居加算　854千円
・地域材利用加算　22千円
予算額合計　6,656千円

2．事業の周知
・市ホームページへの掲載
・広報くしろへの掲載
・パンフレットを各支所等（7カ所）へ配布。
・固定資産税納税通知書にパンフレットを同封。
・建設事業協会への周知。

(2)事業の実績と成果

1．事業実施件数及び事業実施金額

	実施件数	補助金額
基本分（省ｴﾈ改修+ﾊﾞﾘｱﾌﾘｰ改修）	※27件	3,932千円
（内、省エネ改修分）	※（4件）	（875千円）
（内、バリアフリー改修分）	※（26件）	（3,057千円）
高齢者同居加算分	5件	522千円
地域材利用加算分	1件	10千円
合計	27件	4,464千円

※省エネ改修とバリアフリー改修の重複実施3件あり

2．事業の周知
・市ホームページへの掲載
・広報くしろに3回掲載（4月、6月、8月）
・パンフレットを配布（阿寒町・音別町行政センター、阿寒湖温泉支所、鳥取支所、コアかがやき、コア大空、コア鳥取）
・固定資産税納税通知書に啓発パンフレットを同封（57,950部）
・建設事業協会への周知

【配布したパンフレット】

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・　現行の補助制度については、ここ数年の利用実績や今後も一定の需要が見込まれることから、補助を継続する必要がある。また、カーボンニュートラルの実現に向け、安心、安全、快適で良質な住宅・建築物ストックの省エネ化推進のため、国や道の取組と連携して既存住宅・建築物の省エネ改修を推進する必要がある。	課題	・当補助制度は、安心、安全、快適で良質な住宅ストックの形成や、カーボンニュートラルの実現に向けた省エネ化推進のため、国や道の取組と連携して実施。 ・国において、窓リノベや子育てグリーンなどの住宅リフォームに対する補助制度を実施しており、当制度の補助内容と重複していることも関係して、近年、省エネ改修分の申請実績が伸び悩んでいる現状があり、制度の方向性についての検討を行う必要がある。
今後(令和7年度以降)の方向性	・　これまでの事業実施結果を検証するとともに、今後も、需要動向や国や道の補助制度の動き等も見極めながら、市民の住生活が向上できるよう、今後の方向性を定めていく。	今後(令和8年度以降)の方向性	・現状や当制度の需要等を踏まえた上で、国や道の動きも見極めながら、当補助制度のあり方や既存住宅のリフォームなどの中間利用策を研究し、今後の方向性を定めていく。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	合併処理浄化槽補助金＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	市民環境部環境保全課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 第2次釧路市環境基本計画 釧路市生活排水処理基本計画
目的と概要	釧路市生活排水処理基本計画に基づき、下水道整備計画区域外での合併処理浄化槽の設置を促進するため、設置希望世帯への設置費助成を行う。 また、浄化槽法第11条に基づく法定検査費用を助成し、浄化槽設置者の負担軽減を行うとともに、設置も促進する。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	1,908	1,668	3,293
財源	一般財源	（千円）	1,795	1,110	2,735
	国道支出金	（千円）	113	558	558
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	8,563	8,866	8,926
	職員数	（人）	1.2	1.2	1.2
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		10.9	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

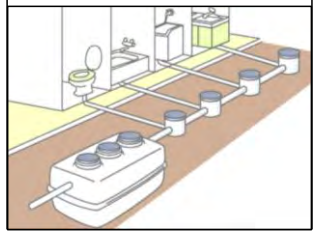
(1)年度当初計画

①合併処理浄化槽設置費補助（平成22年度から継続）
〇助成金額及び件数
・合併処理浄化槽設置費補助
5人槽　600千円×2件
7～10人槽　800千円×1件
・単独処理浄化槽撤去費用補助
120千円×1件
・宅内配管工事費補助
300千円×1件
合計　2,420千円

②合併処理浄化槽維持管理費補助（平成25年度から継続）
〇助成金額及び件数
8千円×95件
合計　760千円

③合併処理浄化槽設置費補助制度の周知

合併処理浄化槽
接続のイメージ図



合併処理浄化槽とは、トイレからの汚水とそれ以外の排水（生活雑排水）を「併」せて「処理」することができる、小さな下水道施設のような設備です。

合併処理浄化槽に接続することで、単独処理浄化槽やくみ取り便槽では処理できないお風呂や台所からの排水も処理できます。

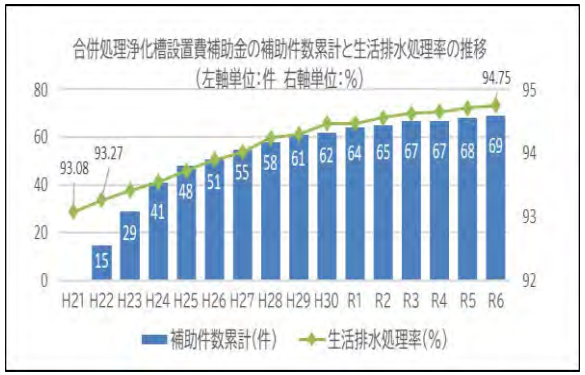
単独処理浄化槽から合併処理浄化槽に転換した場合、放流される排水の汚れは10分の1以下になります。

(2)事業の実績と成果

①合併処理浄化槽設置費補助
◎助成金額及び件数
・合併処理浄化槽設置費補助
5人槽　600千円×1件
7～10人槽　800千円×0件
・単独処理浄化槽撤去費用補助
120千円×1件
・宅内配管工事費補助
300千円×1件
合計　1,020千円

②合併処理浄化槽維持管理費補助
◎助成金額及び件数
8千円×81件
合計　648千円

③合併処理浄化槽設置費補助制度の周知
◎市ホームページおよび広報くしろによる補助制度の周知



3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・対象者の高齢化や設置費用が高額であることを主な要因として、既設住宅における単独処理浄化槽や汲み取り便槽からの合併処理浄化槽転換が進んでいない。	課題	・対象者の高齢化や設置費用が高額であることを主な要因として、既設住宅における単独処理浄化槽や汲み取り便槽からの合併処理浄化槽転換が進んでいない。
今後（令和7年度以降）の方向性	・補助制度を活用した合併処理浄化槽設置数は低迷しているものの、一定数の実績があることから補助件数、金額を現状維持とする。令和5年度は、単独処理浄化槽および汲み取り便槽から合併処理浄化槽への切替を促すため、対象者に補助制度を直接周知することで、実績につながったものである。引き続き設置推進の取組を継続する。	今後（令和8年度以降）の方向性	・補助制度を活用した合併処理浄化槽設置数は低迷しているものの、一定数の実績があることから補助件数、金額を現状維持とする。令和6年度は、単独処理浄化槽および汲み取り便槽から合併処理浄化槽への切替えを促すため、令和5年度に実施した対象者への補助制度の周知や浄化槽設置事業者との連携による周知に努めたことから、引き続き設置推進の取組を継続する。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	都市公園整備事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	都市整備部公園緑地課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 釧路市公園施設長寿命化計画
目的と概要	長寿命化計画による施設の改築を行うことにより、公園施設の事後的な維持管理から、予防的な維持管理への転換を図り、公園利用者の安全・安心を確保する。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	240,734	90,304	203,441
財源	一般財源	（千円）	18,384	5,810	22,041
	国道支出金	（千円）	77,050	39,194	86,500
	地方債	（千円）	145,300	45,300	94,900
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			
【参考データ】			**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（決算額）**	**令和7年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	42,816	44,328	44,628
	職員数	（人）	6.0	6.0	6.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		590.7	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		296.3	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

施設改築
【補助事業】
老朽化した施設の更新　11公園
（遊戯施設　13基、一般施設　6基）

【単独事業】
補助対象外公園施設の更新
（3公園、一般施設　一式）

(2)事業の実績と成果

施設改築
【補助事業】
老朽化した施設の更新　7公園
（遊戯施設　7基、一般施設　3基）

【単独事業】
補助対象外公園施設の更新
（2公園、一般施設　一式）

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・老朽化した施設の計画的な改築のための予算措置と、更新した施設の定期的な保守管理・修繕等の実施。	課題	・老朽化した施設の計画的な改築のための予算措置と、更新した施設の定期的な保守管理・修繕等の実施。
今後(令和7年度以降)の方向性	・公園利用者の安全確保のため、計画的な改築事業の継続、およびライフサイクルコストの縮減に資する資材の使用に努める。	今後(令和8年度以降)の方向性	・公園利用者の安全確保のため、計画的な改築事業の継続、およびライフサイクルコストの縮減に資する資材の使用に努める。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	火葬場施設整備事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	市民環境部環境保全課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想
目的と概要	釧路市昇雲台斎場は平成14年の供用開始から、年数の経過とともに施設全体の老朽化が進んでいるため、施設利用者に不便・不快感等を与えないよう、施設修繕計画を元に計画的な修繕工事を行なう。

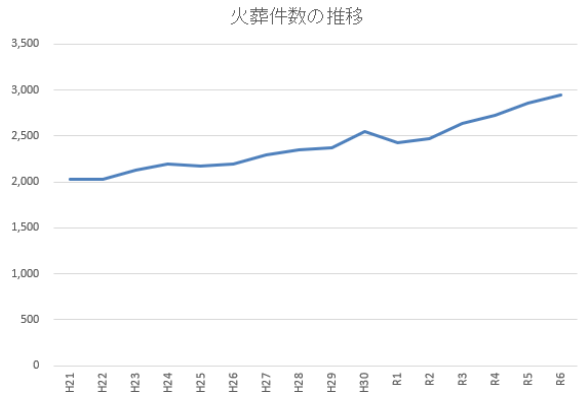
【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	98,008	56,734	44,042
財源	一般財源	（千円）	7,694	1,392	301
	国道支出金	（千円）			
	地方債	（千円）	89,700	53,500	40,600
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）	614	1,842	3,141
【参考データ】			**令和5年度（決算額）**	**令和6年度（決算額）**	**令和7年度（予算額）**
参考①	職員人件費	（千円）	7,136	7,388	7,438
	職員数	（人）	1.0	1.0	1.0
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		371.1	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		350.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

●昇雲台斎場：火葬炉改修工事（炉内台車耐火物交換4台、主燃料室耐火物交換2炉、再燃焼室耐火物交換2炉、排気ファン部品交換2台、残灰集塵機保守点検、電動リフト台車部品交換1台）、待合室床改修工事3部屋



火葬件数（実績）	昇雲台斎場	阿寒町斎場	望洋苑斎場
・令和4年度	2，721件	108件	16件
・令和5年度	2，857件	137件	27件
・令和6年度	2，951件	103件	13件

炉内訳

昇雲台斎場	阿寒町斎場	望洋苑斎場
・通常炉　7炉	・大型炉　1炉	・大型炉　1炉
・特大炉　1炉		
・胞わい炉　1炉		

(2)事業の実績と成果

●令和6年度実績
・昇雲台斎場：火葬炉改修工事（炉内台車耐火物交換4台、主燃料室耐火物交換2炉、再燃焼室耐火物交換2炉、排気ファン部品交換2台、残灰集塵機保守点検、電動リフト台車部品交換1台）、待合室床改修工事3部屋

（写真1）　火葬炉改修工事

（写真2）　待合室床改修工事

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・斎場については、施設の用途・性質上、閉館や長期使用停止ができず、開館しながらの工事となる。利用者に不便・不快感等を与えぬよう、細心の注意を払いながら、かつ、円滑に工事を完了させる必要がある。 ・施設の老朽化により、雨漏りなど当初想定していなかった施設の機能不全が発生してきている。施設利用者に不都合が生じないよう施設の管理を行っていく必要がある。	課題	・施設の老朽化により、当初想定していなかった施設の機能不全が発生してきている。施設利用者に不都合が生じないよう施設の管理を行っていく必要がある。
今後（令和7年度以降）の方向性	・昇雲台斎場の火葬炉改修工事については、令和5年度で終了したものの、平成14年の供用開始から21年が経過しており、火葬炉を含む施設全体の老朽化が進んでいる。施設の利用者に迷惑をかけないよう、必要に応じて都度修繕計画の見直しを行ない、修繕計画に基づき計画的に修繕工事を実施していく。	今後（令和8年度以降）の方向性	・昇雲台斎場については、平成14年の供用開始から22年が経過しており、火葬炉を含む施設全体の老朽化が進んでいる。修繕計画に基づいた修繕工事を実施していくとともに、当初想定していなかった設備の故障等も発生しているため、施設の利用者に迷惑をかけないよう、対応していく。

令和6年度実施事業　主要施策成果シート

1　事業名等

事業名	ごみ減量化対策事業＜当初＞
分類	令和6年度予算の主要事業
所管課・室	市民環境部環境事業課
根拠となる計画	釧路市まちづくり基本構想 釧路市環境基本計画 釧路市一般廃棄物処理基本計画
目的と概要	循環型社会形成に向けたごみ減量・リサイクル推進を達成するため、親子での体験型学習に照準をあてることによって環境教育、啓発活動を実施する。

【予算・決算データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
事業費　総額		（千円）	386	93	165
財源	一般財源	（千円）	386	50	85
	国道支出金	（千円）		43	80
	地方債	（千円）			
	使用料・手数料	（千円）			
	その他特定財源	（千円）			

【参考データ】			令和5年度（決算額）	令和6年度（決算額）	令和7年度（予算額）
参考①	職員人件費	（千円）	2,854	2,216	744
	職員数	（人）	0.4	0.3	0.1
参考②	市民一人あたりの費用	（円）		0.6	
	市民一人あたりの将来負担額	（円）		0.0	

注1）　釧路市民の人口　152,875 人（R7.3末現在）
注2）　市民一人当たりの費用は事業費総額/人口、将来負担額は地方債/人口で算出した。

2　当初計画と実績・コスト・成果

(1)年度当初計画

1．親子バス見学会事業
（1）事業内容
　〇親子での体験を通じた環境意識を醸成することを目的にごみ処理施設等の見学会を実施し、当課が抱える課題である労働世代へのアプローチの強化、リサイクルセンター施設見学数の少なさ、住民周知機会の創出に対して、解決に向けた事業を展開していく。
（2）予算額
　〇親子見学会中型バス貸切代金42.9千円×3回

2．事業周知
（1）参加者の募集
　・市内小学校4～6年生へチラシを配付
　・市ホームページへの掲載
　・釧路市公式LINEへの掲載

(2)事業の実績と成果

令和6年度実績
（1）実施概要
　〇日程
　・8月5日（月）、8月7日（水）
海外観光客によるバスの需要が高く確保が困難であったため当初予定より日程を1日減らした。
　〇見学先
　・釧路市資源リサイクルセンター
　・ネイチャーテック釧路
　・王子マテリア釧路工場
　〇参加人数
　・8月5日（月）　14名
　・8月7日（水）　8名
以上の内容で開催

（後日のアンケートによる参加者の感想）
　・リサイクルの工程を理解することができた。
　・リサイクルの過程に手作業による仕分けがあることを知った。
　・リサイクルできない紙があることを知った。
　・作業員の大変さを知ったのでさらに分別に気を付けようと思った。
（ご意見）
　・大人世代にも意義のある見学会と思う。
　・思った以上にゴミの分別がされていなかったのでさらに周知が必要と思った。
　・わかりづらい分別はホームページに載せてほしい。
　・高齢者や学生、単身者など各年齢層向けに様々な方法でごみの分別に対して注意喚起が必要。
◎アンケートの内容から環境意識の高まりが確認できた。

〇生ごみモニター事業については令和5年度をもって終了したが、モニター事業の結果については今後も有効に活用し、情報発信に努め、各家庭における生ごみ減量化の意識の浸透を推進していく。

3　事業実施上の課題と今後（令和8年度以降）の方向性

令和5年度実施事業評価結果	評価：継続維持	令和6年度実施事業評価結果	評価：継続維持
課題	・生ごみモニター募集において、大家族（5人以上の世帯）向けの応募が目標に達しなかった。共働き家庭では、仕事と家庭の両立、生ごみ処理に時間を割くことが難しいものと考察する。	課題	・令和6年度に関しては、海外観光客需要（インバウンド）により、バスの手配が難しく当初、3日間、中型バスでの開催を予定していたが、2日に減らし開催した。早期の手配が必要。 ・こどもの夏休み期間に親子での見学会であり、親の仕事の状況が参加に影響することからより早い段階での周知が必要。
今後（令和7年度以降）の方向性	・今後も引き続きモニター事業結果を有効に活用し、情報発信に努め、各家庭における生ごみ減量化の意識の浸透を推進していく。	今後（令和8年度以降）の方向性	・当見学会終了後にいただいた感想やご意見は、ごみの分別を市民に周知する際に大変参考になるものがあり、市民の環境意識向上に大変意義のある事業であるため今後も様々な意見に耳を傾けながら継続していきたい。